

# 文化の継承

## その十一 出羽三山の修験道と宿坊

今年も、この鶴岡のまちに法螺貝の音が響き、羽黒山の山伏の方をお見掛けする季節になりました。言つまでもなく、羽黒山など出羽三山は、ここ庄内・鶴岡にとりてはもとより、全国的にも極めて貴重な文化資源で、私たち市民にとっては誇りにも思ひ身近な資源であります。

その出羽三山ですが、古来「西の熊野詣 東の奥参り」と並び称され、長い歴史を重ねてきた羽黒派修験道の地です。この間、数々の厳しい事案を関係者が真剣に取り組んで乗り越え、とくに明治時代には、神仏分離令、修験道廃止令が施行されたのでしたが、そんな中でも、ここには神社・寺院と門前町手向地区の修験者によって、修験道とその伝統が引き継がれています。

今回は、出羽三山神社権西同の宮野直生さん、正善院住職の島津慈道さん、羽黒宿坊組合副組合長の星野三男さんに、山形大学農学部教授の岩畠透明さんの司会で、出羽三山の修験道と宿坊の歴史、その伝統の継承などについて語っていただきました。

今回は、座談会に先立つて出演者に取材をした部分も一緒に掲載していますので、予めご了承ください。

### 三本脚の鳥に導かれ



岩畠 最初に、蜂子皇子による

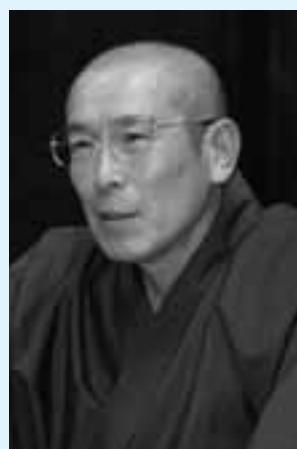
出羽三山開山について、宮野さんからお聞かせいただきたい。

宮野 出羽三山は、推古元年（五九三）に、第三十二代崇峻天皇の第一皇子の蜂子皇子によつて開かれたお山です。当時の日本は、蘇我氏と物部氏といった

豪族が支配し、仏教が入つて數十年という時代です。今までどおり神の国として國づくりをしていくこうという勢力と、新しく入ってきた仏教を中心とした国づくりを目指す崇仏派、その二つの勢力が競合していたわけですね。その中で、旧来の國づくりで歩んでいこうという崇峻天皇は、崇仏派の蘇我馬子によつて暗殺されたとされています。



秋の峰入りの様子



羽黒宿坊組合副組合長  
**星野三男** 氏

また海の向こうにおられる た  
から山や海に向つて神を崇める  
ことから始まつたわけです。そ  
うして行われていたところに、  
外来の仏教などが入ってきて、  
今度は逆に、自分たちが崇め  
他界としてきた山の中に入るこ  
とになり、そこで、修行という  
ことが始まるわけです。それで、  
その山岳修行が盛んになつてく  
るのが、空海や最澄のころです。  
結局、仏道修行する人たちが、  
修験者ということになつてくる  
わけです。そうして、厳しい山  
岳修行を行うことによって、さ  
まざまな靈験、「驗」を身につける  
相手の望みを叶えてやれる力を

羽黒派修驗道

島津一のよひで、羽黒派修驗道も、日本古来の自然崇拜・山岳信仰と仏教などとの考え方によつてできあがつたのです。そこには、「生」と「死」の問題が常に絡んでいます。

例えば、「秋の峰」秋の峰は、お母さんの胎内の修行と言われます。は、お母さんの胎内の修行と言われます。お腹に入つてゐる一百七十五日通称「十月十日」。お母さんの腹の中に入つて産まれ出るまでが

**島津** 日本の信仰について、遠い古代に遡り、その原点は何で  
あつたかと申しますと、まず人間の力が及ばない畏敬のものを神として崇めた。その神は山、  
また海の向こうにおられる。だから山や海に向つて神を崇める  
ことから始まつたわけです。そ

そして、修驗道では暦が重要です。春夏秋冬のけじめ、そして、我々の年齢の捉え方、例えば厄年や還暦、七五三、初七日や四十九日など。皆さんの生活内容に密接に入ってくる。これが、修驗道の広まる大きな力になつてくるわけです。

皇子として宮廷に留まるところの身が危ないと察した蜂子皇子は、京都の丹後の国から日本海を北上し、鶴岡の八乙女浜（現在の由良地区）にたどり着き、そこで三本脚の鳥に導かれて羽黒山に参り、その後月山、湯殿山を開いたという出羽三山開山の故事が伝わっております。

持つ修験者がうまれてきます。その修験者は、山に寝起きしながら修行をします。そこで、「山伏」や「山伏」などといふので、「山伏」または「山臥」という言葉が出てくる。

すべてがなされるのです。  
最近、門戸を広げてているので、  
秋の峰には、一般の方も多く参  
加するようになりました。一番  
多いのは管理職ですね。それか  
ら、お医者さんやスポーツ選手、  
オリンピックの選手も来たんで  
すよ。精神的修行というのかな。  
悩みを抱えることがある人たち  
が多いんです。また、ずっと続  
けて参加する外国の方もいます

自分の感情的なもの」といわ  
れないで、自然的なものとして  
生命を捉えながら、結局、自分  
の「我」というものをそこで完  
全に消してしまうわけです。そ  
して「みんなのために」いつある

修行の中にも出てくるんです。我々の「生」はすでに胎内から始まっているのです。

この秋の峰の究極の目的は、自分自身が仏様、生き仏になるということなんです。そのためには、六根清浄します。我々は、目・耳・鼻・舌・体・心という六根によって悩まされるわけです。例えば「あの人はこう言ったつけ」「あの人はこうだつけ」と言つたり聞いたりして、自分の心が歪むと、それを祓つて清めていく、これを六根清浄といいます。

宮野直生 氏

皇子として宮廷に歸るとそ  
の身が危ないと察した蜂子皇子  
は、京都の丹後の国から日本海  
を北上して、鳥羽の御所（やまとひゆ）を見

持つ修験者がうまれてきます。その修験者は、山に寝起きしながら修行をします。ドクターハーバードは

修行の中にも出てくるんです。  
我々の「生」はすでに胎内から  
始まっているのです。

## 解説

秋の峰…山伏にとって最も重要な行。手向地区の妻帯修験（妻帯山伏）をはじめ、全国に散在する羽黒派の山伏たちが、位の昇進をかけて厳しい修行を行つ。

松聖…手向地区の長老の山伏から、「位上（いじょう）」と「先途（せんど）」と呼ばれる二人の松聖が選ばれる。松聖は、「冬の峰」という百日間の修行を行い、その間、国土安穏・五穀豊穣を祈り続ける。

冬の峰…松聖による百日間の行。その修行の最終日の大晦日には松例祭が行われ、二人の松聖が百日間の行の成果を競い合つ。この松例祭では、手向地区の若者と共に大松明引き（おおたいまつひき）や綱さばき等が行われ、松聖としての行が終わる。

清僧修験（清僧山伏）…羽黒山の山内の寺院の僧。妻を持たない（妻帯しない）ので、江戸時代まで寺院は弟子に引き継がれていた。

妻帯修験（妻帯山伏）…山麓の手向地区に住み、妻を持つた山伏。手向の宿坊の先祖も妻帯山伏であつた。

末派修験（末派山伏）…全国各地にいる羽黒派の山伏。

講…参詣する人たちで組織する団体のこと。

当屋…神社の祭りなどで、神事や行事の主宰者となる家。世襲や当番制で行つ。

神仏分離…慶応四年（一八六八）の神仏分離令によつて行われた、神道と仏教の分離政策。

廢仏毀釈…神仏分離令に伴つて起こつた、寺院や仏具、経文などの破壊行動。

## 中興の祖 天宥別當



岩鼻…江戸時代に、今に続く羽黒派修験道の基礎を築いた中期の祖といわれる天宥別當についてお話をいただきたい。

だつたよつです。書道を教えたりと、島民と親しくし、慕われたそうです。  
今でも天宥別當のお墓は、新島の島民によって守られており、羽黒の関係者による墓参講がきっかけで、旧羽黒町と東京都新島村は友好盟約を結びました。今では、羽黒の駅伝大会に新島の方が参加したり、子供たちもスキーに来たりと、信仰面だけでない交流をもたらしています。このように、天宥別當の功績は今でも引き継がれているわけです。

岩鼻…戦国時代というのは、どちらかと言つと地方分権の時代だつたわけですけれども、それが江戸時代になって中央集権的な国家になつた。そして、修験道の世界も本山派（天台宗系）と当山派（真言宗系）という、あまり強引にやりすぎると、その反動、反発が出てくるわけで、山内衆徒の中で、これに賛成する人と反対するとの二つの勢力に分かれたのでしよう。改革半ばで政治犯として幕府に訴えられ、裁判の末、伊豆七島の新島に流されてしましました。

しかし、天宥別當は、罪人といつても別格だったのでしょうか。

## 出羽三山講



岩鼻…民衆に信仰を広めていく役割を担われたのが、宿坊の先祖、妻帯山伏でした。解説参考

星野…はじめは、各地の清僧（解説参考）僧と、またその弟子・末派山伏が布教活動をし、参拝の先達をして来ておつたそうです。

平成20年11月1日 広報 つるおか



羽黒山総絵図

うです。そうしますと、そこに御社を建てたり、羽黒山、湯殿山という碑を建てたりと。今でも、各地に出羽三山碑が残つております。

私も二十歳から六十八歳まで檀家回りをやりました。今でも宿坊では、冬場には各地を廻つて、御札をお届けしております。

**岩鼻** 冬場、かなり長期滞在されたんですか。

**星野** そうです。今は車ですが、孫親などは、歩いて出かけたので、雪が深くなる米沢の板谷峠を十一月中に越すように、十一月二十日に出発し、帰つてくるのが四月下旬でした。

**富野** いわば冬の間、山伏は各地に出かけ、薬草を携え医師になつたり相談相手になつたり、本来の祈祷師になつたりしたようです。

その山伏たちが全国津々浦々に、関八州、奥羽・佐・信越ばかりではなく日本の国、六十六州まで限なく廻るようになったのは、江戸時代です。飛驒の国を除き、各地に三千七百八十二の末寺があつたといわれています。

**星野** さんからお願いします。私たち手向の人たちは、参拝客という言葉は使わず、「道者」または「道者様」と言っておるんです。

昔は何日もかけて歩いてきたので、泥まみれのような格好でもつてたどり着くわけです。そして、この手向の宿坊では、山に入る前の精進潔斎といつて、宿坊で汚れをきれいに拭い去つて、洗濯をしたきれいなものに着替えて、そして入山するといふ慣わしがあつたわけです。

食事はすべて精進料理で、夕食には「そうめん」を、朝食には「もち」を必ず振る舞う慣わしです。そして、長い道中の疲れを癒していただき、明日からのお山駆けを立派にやつしていくだくというのが宿坊の役割なのです。

私は先祖代々の親戚の人たちをお迎えするような気持ちで、接待してあるわけです。心を手向ける。心からお迎えすると。

**島津** 手向公民館が建つていいところが、手向山、「手向山」だった。手向の語源です。神仏に物を手向ける、その手向けが「手向」になつているわけです。

**星野** 最近はお参りの仕方が次第に個別化してきているよう

**岩鼻** 出羽三山講の中での、宿坊の役割について、

## 先祖代々の 親戚を迎える



**富野** 講は地域のコミニティで…。

**星野** 私が松聖になつたとき、お世話になつた方の名前を書きとめていつたんです。そうしたら、どんどん増えて、百人を超えて、何百人もなりました。そ

の場、そんな役割もあつたと思うんです。一緒に雑魚寝をして「無事に、お参りできてよかつた」とお話をしても、そうして、相互に地域でコミュニケーションをとつて暮らしていたんですね。

## 手向の人々と 祭り



**岩鼻** 松例祭で終わる冬の峰。解説参照 その松聖を務めるのは、手向の夫ですよ。

**島津** 冬の峰といつのは、もともと妻帯山伏の行で、清僧山伏の行ではないんです。松聖をやると妻帯者の修驗道において、明治以前は権大僧都という位をもらいました。

冬の峰は、厳しい修行です。今は新暦にあわせてやつていますが、前は旧暦で、今の一月三十一日ですかね。一番寒い時期だつたんです。明治になつて変わりますが、昔は、松聖になるまでには様々なお勤めを経て、歳をとつてからなつたものですから、行の途中で亡くなつた方もいたんですよ。

**星野** 私が松聖になつたとき、お世話になつた方の名前を書きとめていつたんです。そうしたら、どんどん増えて、百人を超えて、何百人もなりました。そ



(左上)御田植祭り…5月8日  
(左下)花祭り…7月15日  
(中央)八朔祭…8月31日  
(下)松例祭…12月31日



れだけでなく、冬の峰では松の勧進<sup>かんじん</sup>といって、松例祭のために、庄内三郡、何十万の人々にご寄進をいただきにあがるわけです。そうして、大勢の人のお世話になつて、冬の峰の百日間の行ができるのです。この行の間は、朝夕に、天下泰平・国土の安穏、五穀豊穣<sup>じよう</sup>、庄内三郡の人たちの幸せを祈ります。

また、祭りを手伝ってくれる若い人たちが、また大変なんですね。この若い人たちがいなければ、松例祭は成り立たないのであります。

**島津** 今、冬の峰に関係しないような若い人たちが多くなってきたんですね。これから的问题としては、若い人がそういうものに、かかわっていかないと…。そこには、やっぱり、その人たちの価値観がありますからね。それをどう納得させていくのかということが、地域での課題でしょうね。

**岩鼻** 手向地区<sup>くちむく</sup>でも、担い手の若い方々が少しずつ減ってきているという現状はございますか。

**富野** そうですね、価値観が違つてきたんでしょう。でも手向地区は、ほかの地域よりは相互理解が図られていると思います。

**岩鼻** 例えば手向地区には、四月十九日に祓川普請<sup>はらいがわひしん</sup>という手向

祭りの当屋制度<sup>あわせや</sup>解説参照や、松聖もそろなんですけれども、一生一代の誇りなんですよ。子供たちに、後<sup>こう</sup>の世まで、「うちのじいさんは、当屋を務めて、こうやって家を継いでくれたんだ」と。

**富野** 誇りになりますよね。

**岩鼻** 誇り教育でしよう。だれが教えるかと言うと、やはり家族です。そういう姿を見ていれば、私は自然に備わつてくる

**島津** 日本における、精神的支柱<sup>しんじゆ</sup>というのかな。今まで、明治になって近代思想を取り入れて、廢仏毀釈<sup>はぶつきしゃく</sup>解説参照、神仏分離<sup>じんぶつぶんり</sup>をやつて、それは近代化には必要だったかもしれないけれども、今日では

山者に、気持ちよくご来山いたいとの思いからです。大多数の人が「先祖がそうやって、つないできたものを俺たちもやつていかなきやだめだ」と思っている、そういう風土なんです。

**岩鼻** 今、NPOを作つて、地域の若い人たちがいろいろと活動しています。

**岩鼻** 月山旧登山道の整備とか、されていますよね。

**富野** そういう意識<sup>いっしき</sup>が起きたとだと思います。ここに生を受けて育つた人たちは、いかにして守つていくか継承していくか。私たちに課せられた使命だらうと思<sup>おも</sup>います。

**岩鼻** 祭りの当屋制度や、松聖もそろなんですけれども、一生一代の誇りなんですよ。子供たちに、後<sup>こう</sup>の世まで、「うちのじいさんは、当屋を務めて、こうやって家を継いでくれたんだ」と。

**島津** 日本における、精神的支柱<sup>しんじゆ</sup>というのかな。今まで、明治になって近代思想を取り入れて、



松例祭

無思想、無哲学とも言える状況になってしまった。西洋には、人間だけが理性をもっていると心的な考え方があります。しかし、修驗道は自然を中心としたものの考え方です。生きているのではなく、生かされているというものの捉え方です。この修驗道の考え方、命の捉え方は、今後の二十二世紀、二十三世紀に向かって、大きなものの考え方、哲学として、必要とされてくるのではないかと思う。

## 丑歳御縁年



岩鼻 出羽三山は、来年が丑歳御縁年ということですが。

富野 観光業界などからは「丑年で何があるの？」と聞かれることもあります。

丑歳御縁年に参拝すると、十二年分の御利益があるとされています。昔は、ここまで道のりは大変なものでして、経済的にも大変だったので代参なんですね。代表してお参りに来ていたわけです。だから、十二年分の御利益を得るために、十二年に一度、丑年にお参りに来る。だから、「何があるんだ」と言えば、御利益でしょうが、私はこの三山信仰の原点を皆さんに分つて

いただく年だと思います。

**星野** 栃木県には、「丑年を三回お参りしないと一人前でない」という地方もあります。

昔は何日もかけて歩いてきたわけですから、本人も丈夫でなければならぬし、家族・親戚みんなが健康でなければ、何か不幸があれば来られないでしょう。

すると、来年は丑年となりますと、みんなが生活を大切にして、事故のないような暮らしの仕方をみんな心がけたわけです。

ですから、「十二年に一度の御縁年にお参りしましょう」「丑年のお参りしましょう」「丑年御縁年」と知らない人たちに広めんだ」と思ふんです。

岩鼻 そういう意味では、出羽三山なり、最上川を広く知つていただこうと県でも世界遺産登録を目指してきたわけです。

今年九月の文化庁の発表では、残念ながら暫定リストには入らなかったわけですが、それに次ぐランクに位置付けられました。

今後、河川の利用と信仰との結びつきの観点から、最上川と出羽三山、鳥海山との関係について、さらなる検証を行うことが課題となっています。また今、

国土交通省所管の歴史的な街なみを守る制度もできて、これまでの文化財保存の法律では難しかったことも可能になったよう

で、景観保存的なこともできると思われ、そうした点からの努力の積み重ねが、世界遺産登録につながる道でしょう。当然、文化財保存に対する県民や国民の関心も増していくます。

それで、国や県、鶴岡市などで、よりよい保存の方法を考えいただき、地元の方々の意見も反映するよくなかたちで、貴重な文化財保存ができるようにしていただきたいものと思います。

**富野** 出羽三山の貴重な建物等の文化財は、もちろん後世に伝えていくべきです。また、すべての地域にそれぞれ伝統文化があります。地域と共にある松例祭等の行事も、残していくなければと思います。そういう伝統行事は、宗教的な行事というだけでなく、地域の文化ですから。

岩鼻 そうですね、文化財指定には有形だけでなく、無形文化財もありますし、そうすると、県内の民俗学会と文化庁との連携も必要だろうと思いません。

本日は貴重なお話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。